「JENESYS2.0」2015年度中国農村青年幹部代表団
参加者の感想（抜粋）

○　今回の訪問・交流では近距離で日本を理解する機会があった。特に農業の発展状況、社会のインフラ建設について肌身で感じることができた。8日間の訪問・交流で、農業研究の状況、牧場や農産物卸売市場の経営状況を理解し、温泉、寺社、相撲の文化を実際に体験し、8日間は短くも盛りだくさんで、経験すべてが強く印象に残っている。中でも一番印象深かったのは、日本の都市環境だ。なぜなら、街の通りでゴミ箱を見つけるのは至難の業なのに、通りは非常に清潔で、ゴミのかけらも見当たらなかった。日本側の随行事務局に尋ねてはじめて、日本人がみだりにゴミを捨てず、自分のゴミは自分で処理すると知った。これは日本人の素質を示すと共に、「人に迷惑をかけない」という理念も示しており、この理念こそ中国人が培うべきものだ。

帰国後はこれらのことを重点的に周りの友人や同僚に伝えるとともに、今回の訪問で見聞きし、感じたことをより多くの人に伝え、より多くの一般の中国人に本当の日本を知ってもらい、互いの理解を深めるようにしたい。また、より多くの中国人に自分の目で日本を見るよう促し、より多くの日本人に自分の目で中国を見てほしい。両国間の民間交流を通じて、両国の人々の間の偏見やわだかまりを無くし、民間交流により両国関係をさらに良い方向へ発展させたい。

○　農村青年幹部の一人として、いかに農民を豊かにするかが自分の仕事である。今回、北海道箱根牧場を訪問し、観光農業の発展は前途洋々だと感じた。観光農業は北京にも非常に適している。農産物は農産物としてだけでなく、エコロジー、自然、付加価値製品と組み合わせ、多元化した観光農業という産業を打ち出すことが可能だ。この理念を持ち帰り、村民とともにこのモデルを試すつもりだ。

今回の訪問の印象は下記の3点である。

１．「攻めの農林水産業」の展開方向

農林水産省のブリーフから、日本の現代農業の発展は「攻め」の方向にあることが分かった。これは、政府の一連の政策により、日本が農業、農産物、旅行、文化等の分野からまとめて販売し、拳で人々の胸を突くかのように、世界に日本及び日本の農業を知らしめ、良好な成果を上げている。このような統合的かつ有効な資源の利用が一種の旗印となり、日本の知名度を大きく高め、多くの旅行客を引き付けている。

２．資源を最大源に利用

ゴミの分類から汚水処理まで、日本は資源を最大限に利用し、廃棄物を宝に変え、生態系や自然と仲良く共存している。

３．日本国民の我慢強さ、細やかさ

通訳であれ、普通の販売員であれ、皆大変辛抱強く、細やかで、それが「他人の立場

に立って考える」という日本国民の人としての基準となっている。
　以上が私の訪日の感想で、体験を共有し、中日友好のために少しでも貢献するつもりだ。

○　今回の訪問は終了したが、私達が持ち帰るのは日本に対する偏見ではなく真心だ。日本人の勤勉さは学ぶに値する。日本では、人々は大変温かく友好的に接してくれた。都市管理も非常に合理的だ。清潔な街の通り、秩序ある交通、品位ある礼儀正しい礼譲。これらは中国が都市管理において反省し、学ぶ価値があるものだ。また、ゴミのリサイクルも極致に達している。
　両国の人々が真心をもって交流すれば、問題は必ず解決でき、理解してこそ問題解決、平和共存が可能となると思う。

○　今回の訪問で一番印象深かったのは、生産におけるハイテクの応用及び耕地の集約化政策だ。
　農林水産省のブリーフで、日本が農地中間管理機構による分散した耕地の集約で、多くの貸付手続を簡素化し、耕地集約が大規模な機械化生産に寄与し、これにより人材の浪費が大幅に削減されたことが分かった。中国もこの方法を学ぶべきだ。中国は農業大国だが、大部分の地区で耕地がかなり分散しており、この方法を参考にして耕地を集約し、耕地を農作業したい人に貸し出すとともに、機械を導入して生産すれば、生産効率が大幅に高まるだろう。
　ビール工場の見学時、広い生産現場を僅か 2 人の従業員で管理し、毎秒 6 本の速さでビールを缶に詰めているとガイドの説明で知った。このような高効率は全て生産機械のハイテクを頼みとしており、このような生産効率の高さに我々は驚きを禁じ得なかった。
　ハイテクの強みは誰もが知っているが、このようなハイテクには人材の育成が必要だ。より多くの若者に、より多くのハイテクを学ばせるべきだ。

○　農村青年幹部の一人として、中日両国の農村の違いを感じた。特に北海道箱根牧場の視察時、農場の専業化や総合性、農場経営者のこだわりと一途さが強く印象に残っている。農民は一職業人として仕事にベストを尽くすべきで、助けや補助金を待つのではなく、積極的に学び、専門分野に打ち込み、ベストを尽くすことで競争力を備えることができる。人として、また何をするにもこの精神が必要だ。

○　一番印象深かったのは、日本は使える耕地が豊富ではないが、技術と先進的理念により、土地利用率を高めていること、食品及び農産物の安全にもより高い要求を出していること、また、日本の伝統文化の保護と継承についても同様に強く印象に残った。
　帰国後は、中国の農業従事者に日本の現代農業発展の新理念と具体策、及び安全で高

品質の農産物に対する日本の農業従事者のこだわりと真摯な態度について伝えたい。

○　一番印象深かったのは、ファーム TORAO での体験で、82 歳のおじいさんが元気溌剌として、自分の好きなことをし続けていたことだ。日本は高齢化がますます深刻になっているが、このような方や森ケ崎水再生センターで案内をしてくれた 71 歳のおじいさんのおかげで、高齢化現象のマイナス面が弱められている。
　日本の科学技術やインフラ建設、日本人の生活状態について、周りの人に伝えるつもりだ。

○　日本の農業が強く印象に残っている。例えば、椎茸栽培について、日本の椎茸は非常に有名だが、技術情報管理が厳しく、栽培袋もより使いやすく、菌包の生産設備が連係し、温室設計も大変良く、これらはすべて学ぶに値する。

○　東京農業大学総合研究所で、日本の大学生がゴミの分別やリサイクル等の技術について説明してくれたが、日本が資源の総合利用とリサイクルを重視し、あらゆる技術が実情に即し、応用性と可操作性が高く、日本の青年の専門に対する情熱は、専門的資質の高さを示していた。

○　僅か 1 週間程の日本視察は瞬く間に終わり、短時間では日本社会のあらゆる面を深く理解するには至らなかったが、初めて日本に来て視野が広がり、日本の発達した交通、先進的な都市計画と管理、清潔な街や環境を重視・保護していること、農業の現代化とエコ化、そして伝統文化の継承と発揚について見聞を広めることができた。
　中でも一番印象深かったのは、コミュニティの構築と建設だ。日本の清潔な街の通り、さっぱりとして住み心地の良い都市環境、不揃いで趣に富む家屋や伝統文化のスタイル、緑溢れる公園や寺社等、日本の人々が一丸となって街をきれいにし、ゴミを分別し、緑や水源の保護等の活動を行い、都市と農村のコミュニティ美化と持続可能な発展を推進している。
　帰国後は、周りの友人に日本の先進的な都市・農村管理や計画の理念、ゴミ分別の理念を伝え、農村の人々と共にエコ農業とコミュニティ建設を行いたい。

○　今回の訪問で、日本に対する理解が深まり、日本の友人の親しみやすさや礼儀正しさを感じることができた。一番印象深かったのは小川農場の経営者で、75 歳という高齢にもかかわらず、懸命に仕事をしており、物凄く大きなパワーをもらった。我々若者は彼女を見習うべきだ。また、日本の環境保護の理念も強く印象に残っている。
　帰国後は、周りの友人に日本の人々の親しみやすさや礼儀正しさ、環境保護の理念を伝え、周りの友人知人に呼びかけて環境保護のために行動するとともに、日本の先進技

術や日本人の仕事に対するまじめさ、努力、細やかさを伝え、中日友好の使者として前向きなエネルギーを伝えたい。

○　北海道箱根牧場では多くの収穫があった。まず、彼らの発展モデルを学ぶことができたこと、次に消費の理念だ。経営者は「自然環境との共存共栄のために、自然を尊重し、やりたい放題やってはいけない」と話したが、私も賛成だ。人の健康は最も重要であり、健康こそ根本から取り組まなければならない。中国は人口が多いので、昔は腹を満たすため、化学肥料を使わざるを得なかった。しかし今は違う。汚染のない安全な耕地の作付面積が毎年急増している。中日両国は一衣帯水の隣国であり、どちらも世界で重要な影響力を持つ国だ。交流と学習により、両国の人々は世々代々友好を続け、ともに発展できるだろう。

○　今回の訪問で、日本側の行き届いた細やかなもてなしに大変感動した。今回の訪問により、日本の経済、文化及び科学技術の発展レベルを深く理解し、視野が広がり、見聞が深まり、観念が変わり、啓発された。日本の環境は清潔で、都市計画は合理的で、人々は自主的に信号等の規則・制度を守り、温かく客好きだ。農業の発展において、専業化、特色化、ブランド化に気を配り、それにより農業の経済収益と総合競争力を向上させた。思考の転換、観光農業の発展、有機肥料の使用、環境汚染に気を付け、農園を楽園にし、汚染水の処理にも注意している。

帰国後は、前向きなエネルギーを伝えるつもりだ。周りの人に日本の文化、科学技術等について宣伝する。周りの人に日本の先進的農業の意識、客好きな面や食文化等についても宣伝する。より多くの人に日本へ見学、学習しに行ってもらい、それにより相互交流を実現し、友情や互いの信頼を深め、中日友好のために積極的に貢献するつもりだ。